

古くから馬は神の乗り物とされ、貴族や武士が祈願のために馬を奉納する習わしがありました。庶民は馬を書いた木片を納めこれが絵馬の起源となったそうです。

### しんめ 「神馬」って？

＜御料神馬＞（御料とは天皇・皇室のものという意味）

神宮には、皇室から奉進（けんしん）された神馬が、内宮に2頭、外宮に2頭飼育されています。

しんめけんざん  
＜神馬奉参＞

神馬は神職に伴われ、紫地に白く染め抜いた菊花紋章の馬衣を着け、真赤な手綱も鮮やかに大御前に見参（けんざん）されます。

毎月、1日・11日・21日の三度、外宮内宮とも午前8時頃です。

（雨天の折は見合されず）



＜神鶏＞（しんけい）

常世の長鳴鳥＝鶏は、天岩戸の前で鳴声を上げ、大御神を迎え出し、再び太陽（光）を取り戻す役割を担われたことから、内宮の神使「神鶏」として内宮の神苑に放たれ飼われています。

＜白鶏（しろかかけ）の生調（いきみつぎ）＞

鶏はご遷宮関係の諸神事に鶏は欠かせない役目を担っており、日本鶏の小国の白色種のつがいが使われます。

白い小国鶏のなかでも特に姿かたちや声、元気だがおとなしくて気品のある鳥が求められるそうで、これらの鶏は役目を終えたと、神苑に放たれます。

### しんけい 「神鶏」って？



夜は天敵から身を守るため木の上でねむるのだよ。

神馬は神様の使いのついでに人間様のついでにねむるのだよ。

まるで「天の岩戸開き」の再現？  
「鶏鳴三声（けいめいさんせい）」

式年遷宮のクライマックス「遷御の儀」

「カケコー」という鶏の鳴き声が三回鳴らされ、扇を上から下へ三回扇ぎ羽ばたき音を出します。つづく勅使の「出御」の声とともに、神が新宮に遷られ、「天の岩戸開き」を彷彿とさせる儀式です。

なお、豊受大神宮（外宮）での鶏鳴三声は「カケロー、カケロー、カケロー」で、扇も下から上に扇ぐこととなっているそうです。



☆こんにちは 高須新聞店です

いつもご愛読ありがとうございます

今回は、おたよりでご質問をいただいた、神鶏・神馬について書かせていただきました。さまざまな質問等をおたよりでいただいておりますので、またお答えしていけたらと思います。神宮や遷宮に関することは不思議がたくさん。でも、その成り立ちやいわれなどを知ると「そうか。なるほど」と納得してしまいますね。

今後もコツコツがんばって参りますので「次回はどんな話題だろう…」と楽しみにいただければ幸いです。

（\*）

☆次号は12月22日（日）発行予定。おたのしみ

神宮には、神様の使いとして「神馬」と、神様の乗り物として「神鶏」がいます。



弟のスサノオが高天原で大暴れしたのを悲しんだアマテラスは、天の岩戸に閉じこもってしまった。困った神々は、岩戸の前で常世の長鳴き鳥を鳴かせ、宴会を開いて大騒ぎ。にぎやかな声が気になったアマテラスが顔を出した時力の神様がアマテラスを引っ張り出した。

※簡略してあります。



# いせまめ通信

高須新聞店通信 お伊勢さんを知ろう企画

発行：中日新聞 伊勢市南都店 高須新聞店①

〒516-0014 伊勢市楠部町乙422-1  
☎ 0596-24-1720 fax0596-24-1728

毎月25日頃発行 第17号 平成25年11月24日